

## 養鶏試験場だより

都市の公害からみると全く別天地で、太陽と緑の空間にめぐまれたここ養鶏試験場の業務の概要を、誌上を借りて簡単にご紹介します。

### (1) 種鶏改良事業

従来の種鶏改良は、産卵能力の向上を主体にしたものであって、これにより産卵個数は著しく向上してきましたが、その他の形質の改良については十分ではなかったと思います。

最近の大規模養鶏の進展に伴い、鶏の抗病性、飼料効率、卵重などの総合的性能向上が要請されておりますが、当场においては、これらの性能向上に役立てるために、外国鶏としてアメリカびな（ホースゲート系）を本年4月に導入しました。

現在当场においては、卵用種（白色レグホーン）兼用種（横班プリマスロック、ニューハンプシャー、ロードアイランドレッド）および肉用種（白色コーニッシュ、白色プリマスロック）の種鶏を、年間平均約 1,700 羽飼養し、繁殖方法は閉鎖鶏群育種を行っています。今後は改良の主体を単冠白色レグホーン種に置き、A系（兵庫）、C系（岡崎）および前記外国鶏のD系（ホースゲート系）の3系統を保持し、各系統の改良増殖を図ると同時に、各系統間のニッキング調査に重点を置いて種鶏改良を実施する方針であります。

なお、中、大すうの収容施設の拡充整備の目的で、最近注目されている半円筒鶏舎（3間×10間）を新築し、現在、中すう 600 羽を収容して育成中であります。

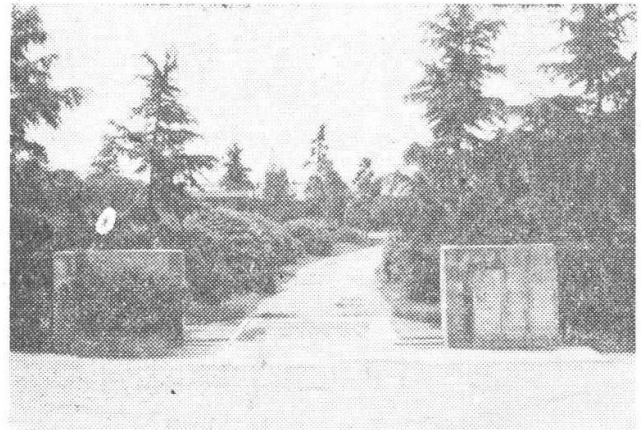
### (2) 鶏の能力検定

#### ○集合検定

現在 16 羽（白レグ 15 羽、ニューハンプシャー 1 羽）を検定中であります。

#### ○経済能力検定

本検定事業は、昭和 36 年度から開始され、昭和 39 年度までは 1 群当り 40 羽とし、検定依頼者指名は公



養鶏試験場の正面玄関

表しませんでした。本年度からは、1 群当り 50 羽として、検定依頼者氏名を付して公表する方針であります。

現在、1 群 50 羽で、9 群計 450 羽について実施中であります。

### (3) 試験調査

このうち主なものについて紹介します。

#### ○産卵鶏のグループケージに関する試験

現在普及している単飼ケージは、産卵調査、駄鶏淘汰などの管理面では利点も多いが、反面、単位面積当り収容羽数、省力化、1 羽当りの設備費などについては、今後さらに検討改善を要する面が多いので、グループケージにおいて昨年度に引続き本試験を実施しております。

#### ○ブロイラー飼養標準設定に関する試験

現在のブロイラー用飼料の飼養標準は外国に準拠したものであり、必ずしもわが国情に適したものではありませんので、これを検討し、飼養標準を設定するため、昭和 36 年度から 5 年計画で本試験を実施しています。

#### ○鶏飼料のぬか類節減に関する試験

配合飼料の原料として、ぬか類（米ぬか、ふすま等）がかなり使用されているが、飼料需要の急増とともに、ぬか類が品薄の状態にあります。そこでぬか類の代替として、アルファルファミール、モミガ

## 岡山畜産便り 1965.06

ラなどの配合した場合の飼料的価値にて産卵鶏に対する給与試験にひきつづいて、育成鶏について給与試験をしています。

### ○大豆粕の飼料的価値に関する試験

熱処理をした大豆粕と、しない大豆粕とでは飼料的価値が異なると推定されるので、両者の産卵などに及ぼす影響について比較試験を行っています。

### ○油脂類の飼料的価値に関する試験

最近輸入されている油脂類（グリース）は超高カロリーであり、飼料のカロリー増加の資源として重要視されています。しかし、これの飼料的価値についてはいまだ確実な飼料がないため、これの試験調査を行っています。

### ○肉鶏造成のための適品種、適系統選定に関する試験

ブロイラー養鶏の進展に伴い、経済性の高い素びなを安価に生産する必要に迫られていますので、ブロイラー種鶏の適品種、適系統の選定に関する試験研究が行われています。

当場においても、国の試験研究に協力して、昨年の第一次試験に引き続き、本年度は6月10日ふ化のホワイトロック（母系4試験区計320羽）およびホワイトコーニッシュ（父系90羽）を兵庫種畜牧場より配布を受け、母系については初生びなより20ヵ月令までの育成ならびに産卵性能などを調査するとともに、これに前記父系を交配し、両系の交雑びなについてブロイラー素びなとしての産肉性能を試験調査します。

## （4）飼料分析

飼料品質改善に関する法律による収去飼料の分析検査、および当場の供試飼料などの分析を行っています。

なお、昨年度の実績は次のとおりです。

収去飼料	57 件
当場供試飼料	116 件
依頼	19 件
計	192 件

## （5）畜産技術講習生

畜産技術講習生は40年度は5名で、全員独身寮に

収容し、共同生活を通じて共同精神の涵養に努めるとともに、講義および実習により教育を行っています。



団地みたいな鶏舎並木